

世界における 日本語教育

— 学習者ニーズに合わせた教材開発の可能性 —

2026年

11月14日(土)

13:30~16:50(日本時間)

QRコードより事前にお申し込みください。

会場で参加

和歌山大学 西1号館1階会議室



定員
10名

オンライン
Zoom
webinar

定員
500名



参加無料

本シンポジウムでは、各協定大学における日本語教育の取り組みを共有します。また、学習者のニーズに応じた教材開発の可能性に着目し、昨年度の議論を踏まえ、

資源活用の観点から、学習者のニーズに合った情報・物的資源(生成AIを含む)の活用方法やその可能性、意義について議論します。

基調講演

生成AI時代の「教材」を問い直す
— AI・ICTリテラシーと教育的判断

李 在 鎬

早稲田大学大学院 日本語教育研究科 教授

李在鎬(リ・ジェホ)。早稲田大学大学院日本語教育研究科教授。京都大学大学院人間・環境学研究科修了、博士(人間環境学)。情報通信研究機構、国際交流基金日本語試験センター、筑波大学を経て、2016年より現職。専門は日本語教育、計量言語学、言語テスト、コーパス言語学、教育工学。近年は、生成AIと日本語教育、ICTを活用した言語学習、作文評価などを中心に研究している。主な著書に『AIで言語教育は終わるのか?』『データ科学×日本語教育』『ICT×日本語教育』など。2014年日本語教育学会奨励賞受賞。2026年より早稲田大学日本語教育学会会長。



総括

安本 博司

和歌山大学 日本学教育研究センター センター長

2010年より韓国新羅大学で教鞭をとった後、2012年より日本の大学で留学生に対する日本語関連科目、日本人学生に対する日本語関連科目、人権問題論などの科目を担当。2022年和歌山大学日本学教育研究センター准教授、同センター副センター長を経て現職。博士(人間科学)。主な著書として、『テーマ別中級から学ぶ日本語ワークブック(三訂版)』(2015)、『テーマ別上級で学ぶ日本語ワークブック(三訂版)』(2017)、『コア系移住者の民族継承をめぐる』(2019)などあり。



事例発表



グダンスク大学
日本学科 講師
スプリスガルト 友美



ベトナム外交学院
外国語学部 日本語学科 准教授
チン・ティ・フォン・タオ



チャナッカル・オンセキズ・マルト大学
日本語教育学科長・教授
トルガ・オズゼン



義守大学
応用日本語学科
主任・日本研究センター長
楊 佩蓉



和歌山大学
日本学教育研究センター
副センター長・特任助教
嶋本 圭子